

# 家庭愛増進術

——型でなしに

岡本かの子

青空文庫



わたくしは自分達たちを夫とか妻とか考えません。

同棲どうせいする親愛なそして相憐あいあわれむべき人間同志と思つて居います。そして元来がんらいが飽あきは因縁いんねんの深さを痛感いたかんします。わたくしは因縁いんねんこそ実に尊とうとくそれを飽あくまで迄も大切にすべきものだと思つて居おります。其処そこに優よししい深切しんせつな愛情あいじやうが当然おこ起るのであります。

わたくしもわたくしの同棲者どうせいしやも元来もとが或る信念しんねんの上に立つと従順じゆうじゆんな人間にんげんになり生活せいかつ意識いしぎや情操じやうそうが一ひと所に集注しゆうちゆうするたちと見えます。(それゆえ却かえつてこの信念しんねんを樹立じゆりつし合わなかつた昔はお互いに或る部分ぶぶんが少し散漫さんまんな所もありました)

さて、わたくし達は「夫婦」などと云いわれるとびっくりするようなへんな気がいたします。「夫婦」でないと云うのもそろそろしいでしょう、でもそれ以上とかそれ以下とかそれ以外とかも云えないのでしようね。強しいて形容詞けいようしのなかへ入れられないような人間同志にんげんどうしが無上むじやうの信頼しんらいと哀楽あいらくと相憐あわれみとを共にして生きて居いる。――

既すでに同一感情どういつかんじやうと生活意識せいかついしぎの上に立つて生きて居るとしますれば一つひとつのものを喰たべ、同じ所ところを視み、なるべく同じ所に居たいのはあたりまえです。

「あの人達は甘い。」

「あそこではいつも一所いっしょに出かける。」

「へんに仲よが好い。」

などと皮肉らしく云われても平気です。

「かんしんな同棲者達だ。」

「模範もはん的な同棲者達だ。」

こうほめられてもあたりまえのような気がします。

世間を対照たいしょうしてではなくわたくし達はわたくし達の信念を行って居いるのでありますから。

「かの子さんはお嬢じょうさま様 育ちだから一平いっぺいさんが世話をしないと他所よそへ出られないから

いつでもついて行って貰もらって居る。」

斯こう云いわれても嘘うそとは云いません。しかし家の内なかでは実に私は一平の召使めしつかいのような

働きをする時がいくらもあるのですから。

両方で適度に助け合い世話もやかせ合わなければ両者の親愛はむしろ保てないと私の生活意識の一部分が明確に感じて居ます。

自分の大切な生命力をついやさ無ないものに本当の愛念あいねんの残るはずはありません。自分

の仕事が実にいそがしい主人が、たまにはめんどうと思つても、主人は主人のひまを割きいてわたくしの為ためにして呉くれます。(他所へつれて出てもらうことより今の処別ところに何も世話はやかせませんが)それが習慣となれば随したがつて自然にその時々わたくしへの労力と思つて呉れるでしょう。

元がんらい来家事にむかない私が自分の研究の暇ひまをさいて、とにかくそれに励はげむようになったのも仕向けられるばかりでは済まないこれによつて仕向けて上げようと云う意力いりよくから始まつた事ことです。それから又またいくら信念の上に立つた親愛同志の同棲者に対してでも、やはり些細ささいな観察や評価の眼はにぶらしてはなりません。それは決して其結果そのによつて打算ださん的な仕向けをするという卑いやしい考えからでは無くて、自分の身しん辺べんを晦くらまして置くという手前勝手を許さない事になり、また本当に自分の親愛なもの的心を停滞させ腐敗ふはいさせ無い為のやはり叡明えいめいな愛の作業だと思ひます。時には怒りも憎にくみもします。しかしそれは私情の憎みや怒りとは違います。(私情で怒つたり憎にくんだりした時は直すぐに私は自分に恥じます。そして対者あいてにつつしんであやまります。)

うやうやしき礼しやの八千度さかしらのわがひと言はゆるし賜たぶべし。

\*

子供に對しての事も一寸お聞きになつたようですね。子供とわたくしの間もこれと同じ氣もちです。折々の歌でそれを表わして置きます。

かりそめに叱りうべしや吾子といへどこの天地のひとりの男の児

この歌は下手ですが子供を叱つたあとの氣もちです。

この世なるえにしふかくして母よ子と和みくらさんみじかきこの世を。

おみなごの足らはぬふしや多からん母の名によりて許せよわが子。

子供のキャッチボールのそれ球をわんわんのように這つて椽の下にさがしに行つたりどろだらけな靴下をつくろつてやることもあります。しかしわたくしの下駄も子供に揃えさせることもあり郵便をいれにやることもあります。こちらが小言を云う時もありあちらから意見されることもあります。

女中 中 に対しても同じです。余計なお饒舌や謙言を云う時には口では云わずになるたけきつい顔して無言のいましめをしてやります。でも使い過ぎたり思い違いで云い過ぎたりしたと分れば「氣の毒しました。」「すまなかつた。」は直ぐわたくしの口から出ます。

これらは何も家庭円満をはかろうの暮しよく家庭をしようのと巧利的な計画でやるので

はありません。わたくしはわたくしの生きて行く信念と好みの潔癖けつぺきから家庭の者にこう仕向けないでは居いられないのです。近年は随ずい分ぶんヒステリックな他に居いつけなかつた女中などが長く居いて呉くれます。

要するに。時々だらしがなくなる心をひきしめてはわたくしの好みと潔癖と信念が以上のような生活にわたくしを置きます。たまたま円満な家庭との評を得たのはその無意識な結果に過ぎないので。決して他人にこれを標ひょう示じするとうような潜せん越えつな考えはありませんがたつてとの御質問に辞じしがたくてぎつとお返辞へんじしましたまでです。





# 青空文庫情報

底本：「愛よ、愛」パサージュ叢書、メタローグ

1999（平成11）年5月8日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十四卷」冬樹社

1977（昭和52）年5月15日初版第1刷発行

初出：「婦人画報」

1929（昭和4）年3月号

※「椽《えん》」「潜越《せんえつ》」の表記について、底本は、原文を尊重したとして  
います。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2004年3月30日作成

2013年10月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 家庭愛増進術

——型でなしに

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

著者 岡本かの子

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>